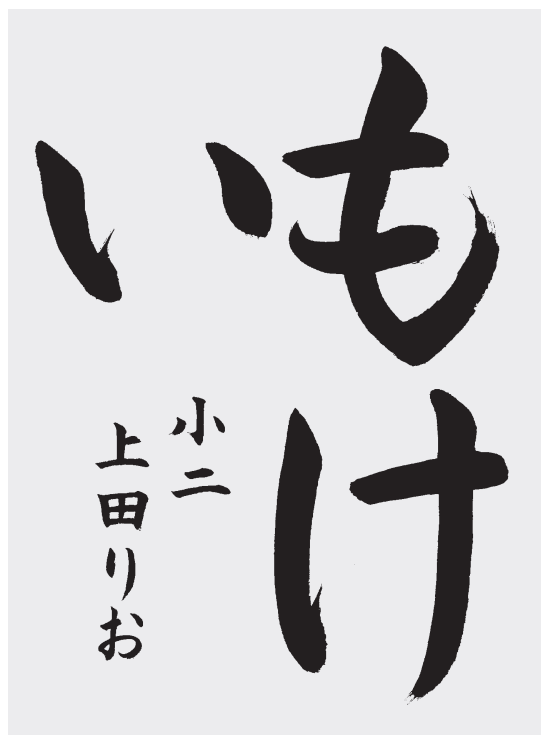
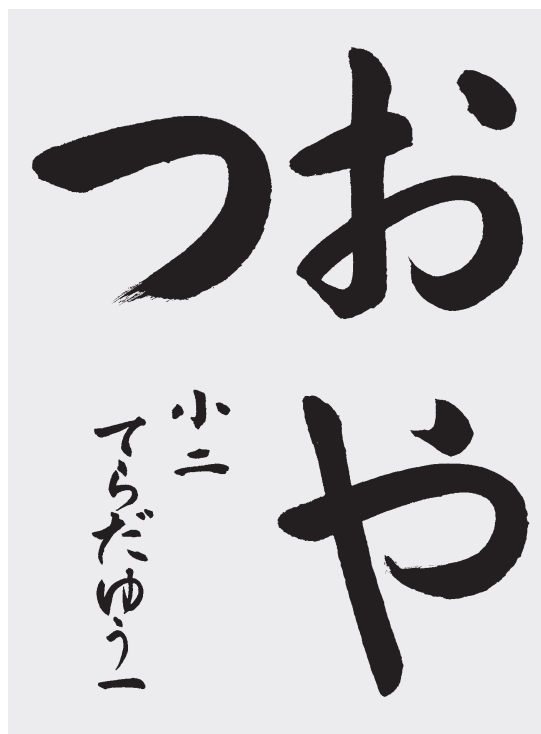


〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本



名越蒼竹先生

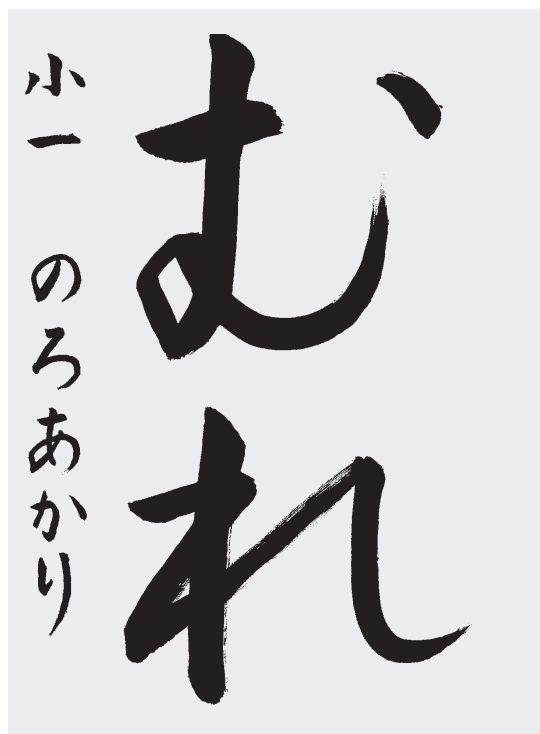


辻元大雲先生

幼・小学1年参考手本



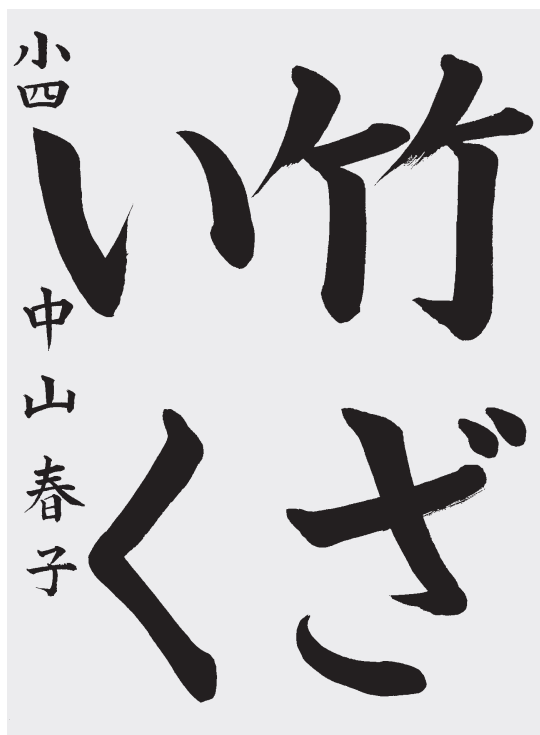
柳橋香仙先生



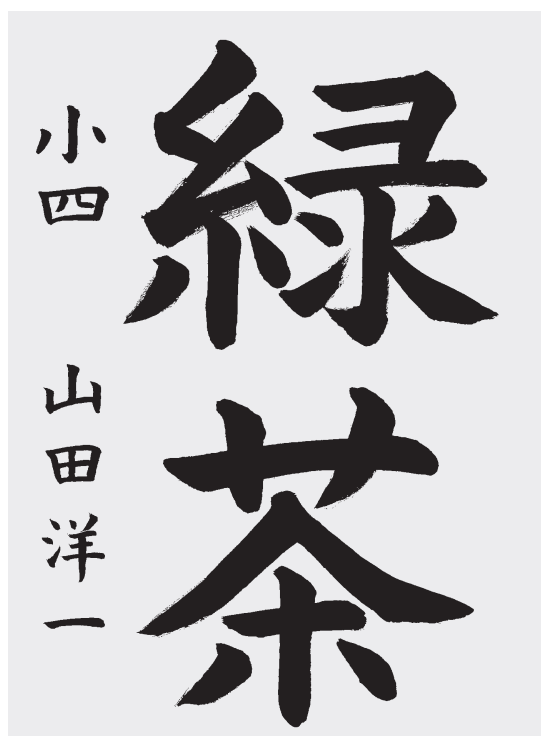
稲垣小燕先生

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

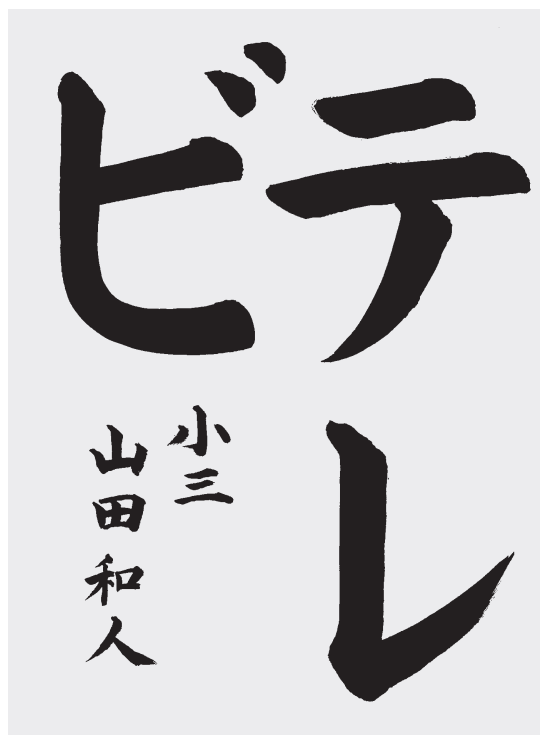


大町青蓮先生

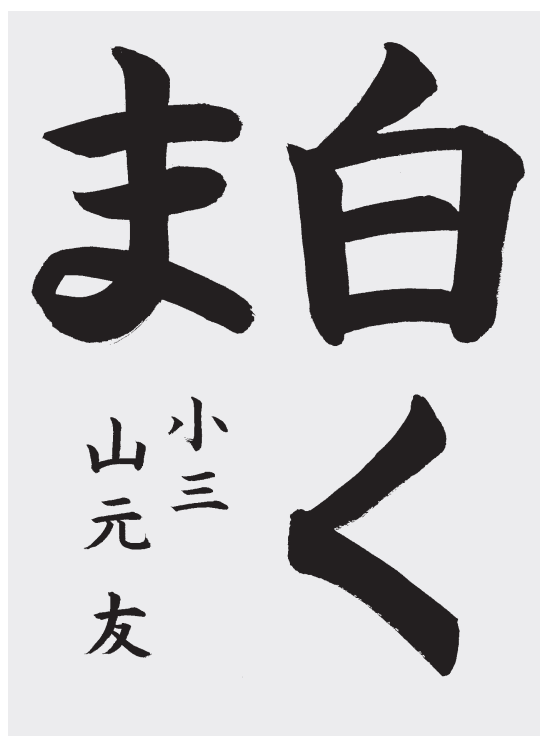


北村白琉先生

小学3年参考手本



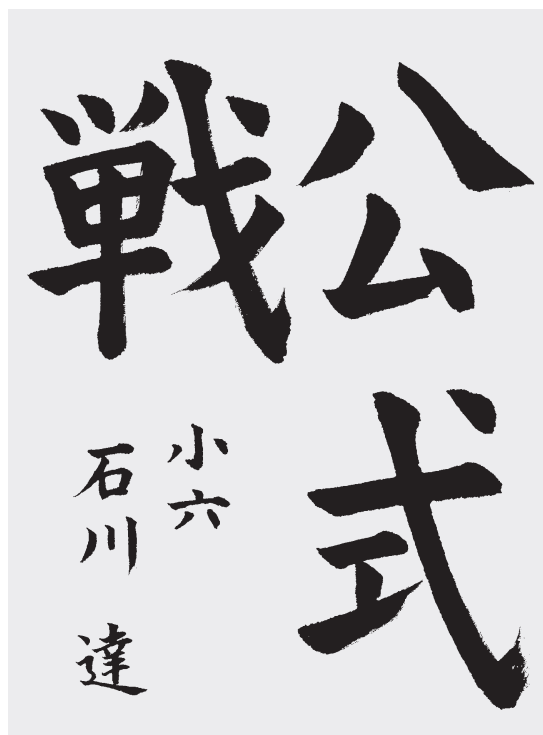
田中扇溪先生



大平邑峰先生

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本



前田龍雲先生

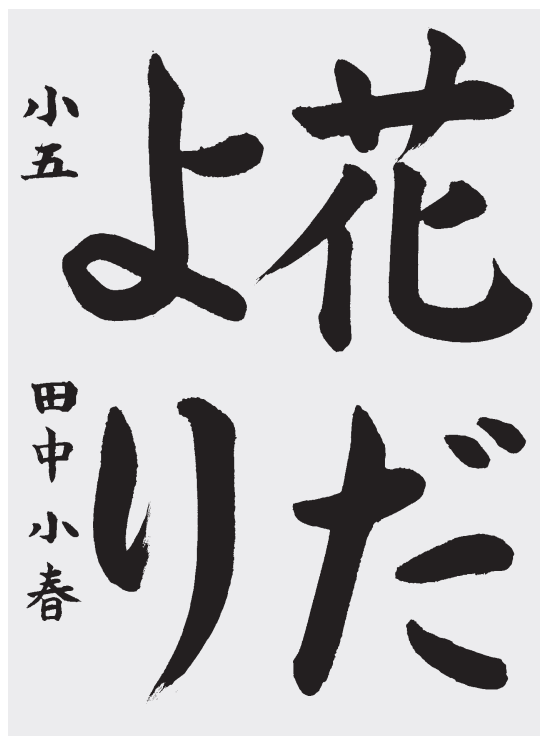


千葉蒼玄先生

小学5年参考手本



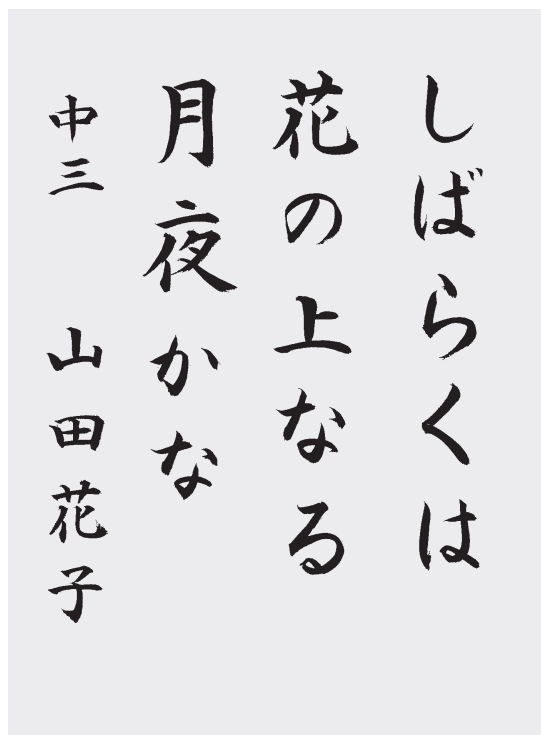
田村鄭雲先生



武山櫻子先生

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



小竹石雲先生



種谷萬城先生



広瀬舟雲先生



東雲（集字・拡大）

●有名な古典の名跡に挑戦してみよう

発展〔中学生〕

九成宮醴泉銘
（中国唐時代）
歐陽詢

※この課題は楷書で書くこと。

○古典の書を手本として書を学ぶことを「臨書」といいます。欧陽詢が書いたこの石碑の書は、「楷法の極則」といわれる中国・唐時代の楷書の名品です。縦長の整った字形で、「口」字にみられるように向かい合う二本の縦線が互いに反ってクビれ引き締まったように見える字形（背勢といいます）が特徴です。

毛筆参考手本解説(1)

1年

み ¹ ² ³ ⁴ ⁵ ⁶ ⁷ ⁸ ⁹ ¹⁰ ¹¹ ¹² ¹³ ¹⁴ ¹⁵ ¹⁶ ¹⁷ ¹⁸ ¹⁹ ²⁰ ²¹ ²² ²³ ²⁴ ²⁵ ²⁶ ²⁷ ²⁸ ²⁹ ³⁰ ³¹ ³² ³³ ³⁴ ³⁵ ³⁶ ³⁷ ³⁸ ³⁹ ⁴⁰ ⁴¹ ⁴² ⁴³ ⁴⁴ ⁴⁵ ⁴⁶ ⁴⁷ ⁴⁸ ⁴⁹ ⁵⁰ ⁵¹ ⁵² ⁵³ ⁵⁴ ⁵⁵ ⁵⁶ ⁵⁷ ⁵⁸ ⁵⁹ ⁶⁰ ⁶¹ ⁶² ⁶³ ⁶⁴ ⁶⁵ ⁶⁶ ⁶⁷ ⁶⁸ ⁶⁹ ⁷⁰ ⁷¹ ⁷² ⁷³ ⁷⁴ ⁷⁵ ⁷⁶ ⁷⁷ ⁷⁸ ⁷⁹ ⁸⁰ ⁸¹ ⁸² ⁸³ ⁸⁴ ⁸⁵ ⁸⁶ ⁸⁷ ⁸⁸ ⁸⁹ ⁹⁰ ⁹¹ ⁹² ⁹³ ⁹⁴ ⁹⁵ ⁹⁶ ⁹⁷ ⁹⁸ ⁹⁹ ¹⁰⁰ ¹⁰¹ ¹⁰² ¹⁰³ ¹⁰⁴ ¹⁰⁵ ¹⁰⁶ ¹⁰⁷ ¹⁰⁸ ¹⁰⁹ ¹¹⁰ ¹¹¹ ¹¹² ¹¹³ ¹¹⁴ ¹¹⁵ ¹¹⁶ ¹¹⁷ ¹¹⁸ ¹¹⁹ ¹²⁰ ¹²¹ ¹²² ¹²³ ¹²⁴ ¹²⁵ ¹²⁶ ¹²⁷ ¹²⁸ ¹²⁹ ¹³⁰ ¹³¹ ¹³² ¹³³ ¹³⁴ ¹³⁵ ¹³⁶ ¹³⁷ ¹³⁸ ¹³⁹ ¹⁴⁰ ¹⁴¹ ¹⁴² ¹⁴³ ¹⁴⁴ ¹⁴⁵ ¹⁴⁶ ¹⁴⁷ ¹⁴⁸ ¹⁴⁹ ¹⁵⁰ ¹⁵¹ ¹⁵² ¹⁵³ ¹⁵⁴ ¹⁵⁵ ¹⁵⁶ ¹⁵⁷ ¹⁵⁸ ¹⁵⁹ ¹⁶⁰ ¹⁶¹ ¹⁶² ¹⁶³ ¹⁶⁴ ¹⁶⁵ ¹⁶⁶ ¹⁶⁷ ¹⁶⁸ ¹⁶⁹ ¹⁷⁰ ¹⁷¹ ¹⁷² ¹⁷³ ¹⁷⁴ ¹⁷⁵ ¹⁷⁶ ¹⁷⁷ ¹⁷⁸ ¹⁷⁹ ¹⁸⁰ ¹⁸¹ ¹⁸² ¹⁸³ ¹⁸⁴ ¹⁸⁵ ¹⁸⁶ ¹⁸⁷ ¹⁸⁸ ¹⁸⁹ ¹⁹⁰ ¹⁹¹ ¹⁹² ¹⁹³ ¹⁹⁴ ¹⁹⁵ ¹⁹⁶ ¹⁹⁷ ¹⁹⁸ ¹⁹⁹ ²⁰⁰ ²⁰¹ ²⁰² ²⁰³ ²⁰⁴ ²⁰⁵ ²⁰⁶ ²⁰⁷ ²⁰⁸ ²⁰⁹ ²¹⁰ ²¹¹ ²¹² ²¹³ ²¹⁴ ²¹⁵ ²¹⁶ ²¹⁷ ²¹⁸ ²¹⁹ ²²⁰ ²²¹ ²²² ²²³ ²²⁴ ²²⁵ ²²⁶ ²²⁷ ²²⁸ ²²⁹ ²³⁰ ²³¹ ²³² ²³³ ²³⁴ ²³⁵ ²³⁶ ²³⁷ ²³⁸ ²³⁹ ²⁴⁰ ²⁴¹ ²⁴² ²⁴³ ²⁴⁴ ²⁴⁵ ²⁴⁶ ²⁴⁷ ²⁴⁸ ²⁴⁹ ²⁵⁰ ²⁵¹ ²⁵² ²⁵³ ²⁵⁴ ²⁵⁵ ²⁵⁶ ²⁵⁷ ²⁵⁸ ²⁵⁹ ²⁶⁰ ²⁶¹ ²⁶² ²⁶³ ²⁶⁴ ²⁶⁵ ²⁶⁶ ²⁶⁷ ²⁶⁸ ²⁶⁹ ²⁷⁰ ²⁷¹ ²⁷² ²⁷³ ²⁷⁴ ²⁷⁵ ²⁷⁶ ²⁷⁷ ²⁷⁸ ²⁷⁹ ²⁸⁰ ²⁸¹ ²⁸² ²⁸³ ²⁸⁴ ²⁸⁵ ²⁸⁶ ²⁸⁷ ²⁸⁸ ²⁸⁹ ²⁹⁰ ²⁹¹ ²⁹² ²⁹³ ²⁹⁴ ²⁹⁵ ²⁹⁶ ²⁹⁷ ²⁹⁸ ²⁹⁹ ³⁰⁰ ³⁰¹ ³⁰² ³⁰³ ³⁰⁴ ³⁰⁵ ³⁰⁶ ³⁰⁷ ³⁰⁸ ³⁰⁹ ³¹⁰ ³¹¹ ³¹² ³¹³ ³¹⁴ ³¹⁵ ³¹⁶ ³¹⁷ ³¹⁸ ³¹⁹ ³²⁰ ³²¹ ³²² ³²³ ³²⁴ ³²⁵ ³²⁶ ³²⁷ ³²⁸ ³²⁹ ³³⁰ ³³¹ ³³² ³³³ ³³⁴ ³³⁵ ³³⁶ ³³⁷ ³³⁸ ³³⁹ ³⁴⁰ ³⁴¹ ³⁴² ³⁴³ ³⁴⁴ ³⁴⁵ ³⁴⁶ ³⁴⁷ ³⁴⁸ ³⁴⁹ ³⁵⁰ ³⁵¹ ³⁵² ³⁵³ ³⁵⁴ ³⁵⁵ ³⁵⁶ ³⁵⁷ ³⁵⁸ ³⁵⁹ ³⁶⁰ ³⁶¹ ³⁶² ³⁶³ ³⁶⁴ ³⁶⁵ ³⁶⁶ ³⁶⁷ ³⁶⁸ ³⁶⁹ ³⁷⁰ ³⁷¹ ³⁷² ³⁷³ ³⁷⁴ ³⁷⁵ ³⁷⁶ ³⁷⁷ ³⁷⁸ ³⁷⁹ ³⁸⁰ ³⁸¹ ³⁸² ³⁸³ ³⁸⁴ ³⁸⁵ ³⁸⁶ ³⁸⁷ ³⁸⁸ ³⁸⁹ ³⁹⁰ ³⁹¹ ³⁹² ³⁹³ ³⁹⁴ ³⁹⁵ ³⁹⁶ ³⁹⁷ ³⁹⁸ ³⁹⁹ ⁴⁰⁰ ⁴⁰¹ ⁴⁰² ⁴⁰³ ⁴⁰⁴ ⁴⁰⁵ ⁴⁰⁶ ⁴⁰⁷ ⁴⁰⁸ ⁴⁰⁹ ⁴¹⁰ ⁴¹¹ ⁴¹² ⁴¹³ ⁴¹⁴ ⁴¹⁵ ⁴¹⁶ ⁴¹⁷ ⁴¹⁸ ⁴¹⁹ ⁴²⁰ ⁴²¹ ⁴²² ⁴²³ ⁴²⁴ ⁴²⁵ ⁴²⁶ ⁴²⁷ ⁴²⁸ ⁴²⁹ ⁴³⁰ ⁴³¹ ⁴³² ⁴³³ ⁴³⁴ ⁴³⁵ ⁴³⁶ ⁴³⁷ ⁴³⁸ ⁴³⁹ ⁴⁴⁰ ⁴⁴¹ ⁴⁴² ⁴⁴³ ⁴⁴⁴ ⁴⁴⁵ ⁴⁴⁶ ⁴⁴⁷ ⁴⁴⁸ ⁴⁴⁹ ⁴⁵⁰ ⁴⁵¹ ⁴⁵² ⁴⁵³ ⁴⁵⁴ ⁴⁵⁵ ⁴⁵⁶ ⁴⁵⁷ ⁴⁵⁸ ⁴⁵⁹ ⁴⁶⁰ ⁴⁶¹ ⁴⁶² ⁴⁶³

毛筆参考手本解説(2)

6年 そりを長く

公式戦

〔許容〕
ハ 止め
甲 はなす

公式戦(三) 〔筆順〕

公式戦(明) ノハ公公

公式戦(教) 一二一正式式
〰 単戦戦戦

内側に

〔許容〕
はなす
更 接する

世界地図

世界地図(三)

世界地図(教) 世界地図(明)

〔筆順〕

一十廿廿世

四田甲界界

一十廿廿地

〇〇〇〇図図

中学

やさしい行書

万里長城

横画
画に丸み
がある



止めが
はねになることがある



右払い
最後まで
払わずに
軽く止める

払いが止めや
はねになる
ことがある



しばらくは
花の上なる
月夜かな

〔現代語訳〕

しばらくの間は今を盛りと咲き誇る花
の上に月が照っている。この美景を満
喫しよう。
すぐに月は傾いてしまうから。

〔季語〕

花：春 松尾芭蕉

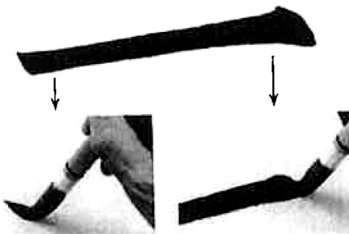
発展

〔九成宮醴泉銘〕

東雲

背勢の字形で書きましよう。
向かい合う線が内側に反り
返るものを背勢の字形とい
います。

厳密で切れ味鋭い筆使い。



収筆 突き返すように
止める。

起筆 穂先を整えて
鋭く筆を入れる。

ひらがなの字源

(412)

か	る	な	の	く	ら	は	し	字源	字形
加	留	奈	乃	久	良	波	之		
か	る	な	の	く	ら	は	し		

※字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
※字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

〔国語科書写の理論と実践〕
全国大学書写書道教育学会編より転載

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学2年

幼・小学1年

硬筆参考手本

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

支 部 名				
	の	き		
	が	れ		
段・級	楽	い		
	し	な		
学 年	み	花		
	で	を		
名 前	す。	見		
		る		

支 部 名				
	つ			
	を			
だん・きゅう	し			
	た。			
がくねん				
	一			
な ま え	山			
	上			
	き			
	ら			
	り			

中心
楽
楽(ゴ) 楽(明) 楽(教)

中心
見
見(ゴ) 見(明) 見(教)

中心
花
花(ゴ) 花(明) 花(教)

中心
を
を(明) を(教)

中心
元
元(ゴ) 元(明) 元(教)

中心
元
元(ゴ) 元(明) 元(教)

かたちをよくみて、ていねいにかきましよう。

これからの作品締切日と課題

令和8年4月号～9月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
満開の桜	希望	予防	木材	左右	王	すな	し	4月6日	4月
はなまつり	先手必勝	ユネスコ	心がまえ	かけ足	二十	ふで	くつ		
緑の草原	条約	新緑	金銀	白馬	米	あお	い	5月6日	5月
のこぼり	完全無欠	輝くいのち	竹笛	作文	友人	エコ	てん		
三保の松原	新風	労働	風景	学校	小川	みらい	た	6月8日	6月
しみず	品行方正	風立ちぬ	早起き	ローマ字	子ねこ	メモ	かわ		
星に願いを	答案	祭典	一直線	元気	ペン	のぞみ	あ	7月5日	7月
くものみね	用意周到	記録達成	登山	自由	大きい	はい	いま		
次代を担う	自在	未来社会	山の日	実行	力もち	こおり	そ	8月3日	8月
荒海や佐渡に横たふ天の川	粉骨碎身	道路	湖水	魚つり	石だん	へちま	もの		
夕映えの富士	名月	正倉院	開始	林道	田んぼ	ひろば	る	9月7日	9月
もみじが	前代未聞	祝日	飛ぶ	金メダル	秋	ねがい	つき		

4月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

し	た
ろ	か
い	い
く	や
も	ま

小2

ん	し
を	ょ
見	う
学	ぼ
し	う
ま	く
す	ん
。	れ

小3

り	そ
合	れ
い	ぞ
絵	れ
に	ゆ
か	め
い	を
た	語
。	

小4

を	た	先
聞	人	生
き	を	は
ま	、	手
し	指	を
た	名	高
。	し	く
	て	あ
	意	げ
	見	

小5

紙	や	調
に	図	べ
書	を	て
き	入	き
写	れ	た
し	て	事
ま	、	を
す	も	、
。	ぞ	う
	絵	

小6

う	す	説
ぶ	る	得
ん	た	力
に	め	の
し	準	あ
ま	備	る
し	を	発
た	じ	表
。	ゆ	

中学生

れ	書	絵
は	き	の
東	加	上
洋	え	部
の	た	や
絵	も	余
の	の	白
特	を	に
徴	画	言
で	賛	葉
あ	と	や
る	い	文
	う	章
	こ	を

書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第108回 左馬について

令和八年は、午年うまとしですね。「馬」に関わるものの一つとして「左馬」を知っていますか。将棋の駒に、普通の『馬』字と左右反転して刻されているものを時々見掛るのですが、これが代表的な「左馬」です。近所のお茶屋の看板として記されているのを見たことがあります。日本では縁起のよい祝いの品として「左馬」が記されたものを人に贈るという習慣があります。「うま」が左右逆になっているので「まう」となり「舞う」に通じ、おめでたい席で躍る「舞い」を連想させる。商売繁盛・千客万来・招福の意味。馬の下部が昔の財布であった巾着きんちやくに似ているのでお金が逃げない（よってたまる）。馬に乗るとき左から乗ると倒れないとのことで、つまり人生で躓つまずかない。などの意味があるとのこと。なんと地元・田無神社の宮司さんから私に今年の掛軸は「左馬」一字を揮毫してほしいという依頼がまいりました。

ところで、十年ぐらい前、同社の宮司さんから、お正月に舞殿に掲げられる「謹賀新年」という全紙大の掛軸の揮毫を依頼されたのが契機で、「謹賀新年」を新年に向けて参拝者の方々が読める行草書で毎年新たに揮毫し奉納してきました。その後、宮司さんからその年に因む語句を考えるのでこれをとの依頼によって、コロナ蔓延の頃には「疫病退散」、終息後には「神恩感謝」と全紙大の画仙紙に揮毫。令和六年は「五龍神」、七年は「惟神」が、国登録有形文化財に

指定されている参集殿の入口に軸装され掲げられて以後、お正月を迎えることに違ふ語句の掛軸が1年間ずっと掲げられることとなりました。文字数は年によって2〜4文字と様々でしたが、みんな字書に普通にのっている漢字でした。「左馬」は漢字でしょうか？ 篆刻をするときの字入れをするときの様な、いわゆる反転文字です。で微妙な立ち位置です。筆画がどこも同じ太さの篆書の反転文字を書くのは慣れると比較的簡単ですが、楷書や行書の反転文字は太さの具合にも反転させなくてはならないので難しいです。中国人留学生に「左馬」について尋ねると知らないとのこと。これを縁起が良いとするのは日本の文化のようで調べると、江戸時代に天童藩（山形県）の武士が生活の足しにするために将棋の駒作りをしている過程で生まれ各地に広がったということが分かりました。日本の漢字文化から派生したものであり、私は前向きに日本の伝統文化として捉え初挑戦してみました。どのように書いたかわかりますか。

◀ 揮毫直後で表装前の「左馬」



しい事が判ったので、画仙紙をあえて横長に置き、横画を全て縦画としてとらえ、上から下へ引いて書いてみました。

今月のホープ



小六 畑 風咲 (福山塾)

筆使いも含めて筆力にあふれ、全体のバランスも実に美しく整いました。「事」字は難しい形ですが傑出していました。



小一 仲丸侑里 (森地書道教室)

二文字がバランスよく半紙に収まっています。筆の入り方がうまく字形と強い線が魅力の作品です。

支那名	
段・級	
学 年	中三
氏 名	浦谷 百希

中三 浦谷百希 (あいら)

力強い漢字とひらがなのやわらかさが調和した美しい作品。落ち着きもあり、全体のまとまりがとても良いです。

支那名	
段・級	
学 年	三
名 前	坂本 真那

小三 坂本真那 (若美会)

強い筆圧の字形が見事。最後まで集中力が途切れず書き終えた点を高く評価します。

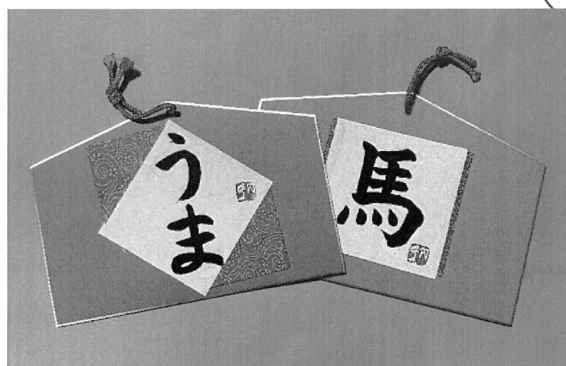
第77回全国学生書道展 ワークショップのお知らせ

絵馬に挑戦！

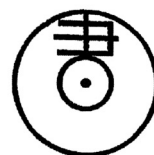
筆で文字を書いてみよう

書道芸術院全国学生書道展では下記の日程でワークショップを行います。多数のご来場をお待ちしております。

日時 令和8年2月8日（日）
午後1時～2時半
場所 東京都美術館（上野）・入場無料
2階2棟学生展会場



2月7日（土）には
午前10時から作品前で
席上揮毫会を行います



公益財団法人 書道芸術院

前回展の写真 第76回 全国学生書道展

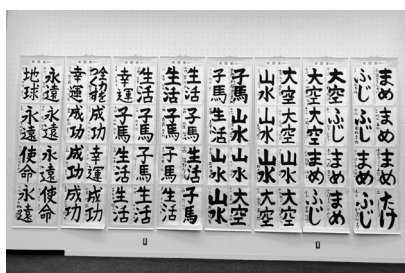
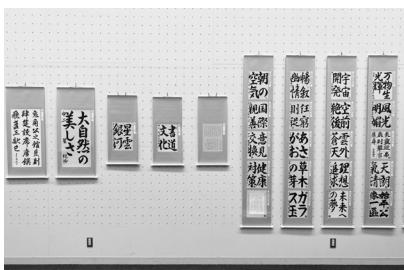
(席上揮毫)



(ワークシヨップ)



(会場風景)



編集余録

○第77回全国学生書道展が令和8年2月5日から11日まで上野の東京都美術館で開催されます。皆さんを指導してくださっている先生方の指導者展も同じ会場で開催します。今月号に団体賞と個人賞の上位入賞者の名簿を掲載しました。ぜひ会場に足を運んでみてください。

○令和7年度の課題は今月号(3月号)で終了いたします。今月号までは現在の学年の課題を書いてください。来月号(4月号)からは令和8年度の課題になりますので、新学年の課題を書いてください。尚、高校生になる方は、『書道芸術学生版』は卒業となり、大人の『書道芸術』になります。高校では、国語科書写から芸術科書道となり、今まで文字を正しく整えて書くために学習して身につけた能力を、さらに向上させるため、様々な書の表現技法を学んでいきます。大人の『書道芸術』では、漢字や仮名などの古典の臨書や創作、条幅、ペン字、実用書など充実した内容になっています。中学を卒業する皆さん、ぜひ高校生になっても書道を続けて、大人の『書道芸術』に出品して、幅広く書を学んでください。

(悠輝)